

平成 18 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
第 2 回森林生態系部会

議事概要

◆日 時 平成 19 年 3 月 1 日 (木) 13:30~15:50

◆場 所 春日野荘 故傍の間

◆出席者

<委 員>

井上 龍一	奈良教育大学附属小学校 教諭 (ご欠席)
川瀬 浩	日本野鳥の会奈良支部 副支部長
木佐貫 博光	三重大学 助教授
佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館 学芸員
高田 研一	高田森林緑地研究所 所長 (ご欠席)
野間 直彦	滋賀県立大学 講師
日野 輝明	独立行政法人森林総合研究所関西支所 野生鳥獣類管理チーム長(ご欠席)
日比 伸子	樫原市昆虫館 学芸員
前田 喜四雄	奈良教育大学教育学部附属自然環境教育センター 教授
松井 淳	奈良教育大学 教授
村上 興正	元京都大学 講師
横田 岳人	龍谷大学 講師

<関係機関>

林野庁近畿中国森林管理局

計画部計画課	森林施業調整官	上村 邦雄
計画部指導普及課	技術開発主任官	鳥谷 和彦
奈良県農林部森林保全課	係長	白井 実
上北山村地域振興課	(ご欠席)	
吉野きたやま森林組合上北山支所	(ご欠席)	

(以上敬称略)

<事務局>

環境省近畿地方環境事務所	統括自然保護企画官	田邊 仁
	野生生物課長	高橋 勝志
	自然保護官	西野 雄一
	自然保護官	石川 拓哉
(財) 自然環境研究センター	主席研究員	永津 雅人
	研究員	岸本 年郎
(株) 環境総合テクノス	環境共生部リーダー	樋口 高志
	環境共生部員	保延 香代

◆議 事

- (1) 平成18年度「森林生態系保全再生」実施報告案について
- (2) 平成19年度「森林生態系保全再生」実施計画案について
- (3) その他

◆議事概要

○委員及び関係機関からの主な意見等

(実証実験の実施・効果確認調査)

- ・ 実証実験の効果の整理において、防鹿柵の効果として、シカによる実生の食痕及び成木の剥皮が見られなかつたことのみが記載されているが、柵の内部でミヤコザサが増加しているという事実についても記載すべきである。
- ⇒ [事務局] 実証実験の効果の整理にあたっては、それぞれの実証実験の実施目的が達成されているかという観点でまとめている。防鹿柵の実施目的は「シカによる実生および成木の採食を防ぐ」とされているため、このようなまとめ方になっているが、ご意見を踏まえ、実施目的以外に確認された事項についても、参考情報として記載する。
- ・ 再生ポテンシャルの評価表については、(1) 森林に与えている圧力（現表：①）、(2) 森林の機能（現表：②～⑤）、(3) 実生の発芽・定着（⑥～⑨）の各段階に分けて整理した方が分かりやすいのではないか。今後の方針性を検討する際にも、このような整理が必要と考える。
- ・ 今後の課題として、動物との相互作用の観点を考慮しつつ、調査結果をまとめる必要があるのではないか。実際に具体化を考えるのは難しいが、どのような動物が森林の更新に影響を与えるのかを類推し、動物モニタリング調査とも関連させながら、検討していく必要がある。
- ・ その観点では、まずは既存文献等を収集し、その活用について検討してはどうか。

(植生に関する調査)

- ・ 植物相調査については、出現種数だけではなく、既存文献等と比較し、絶滅の危険性などを考慮した評価が必要である。
- ・ 植物相調査をまとめる際には、大台ヶ原の特殊性・固有性に着目した評価が必要である。「大台ヶ原版レッドデータブック」をまとめるようなイメージで進めてはどうか。
- ・ その観点では、奈良県内における「大台ヶ原」の位置づけ（特殊性・固有性）を把握することが重要であり、大台ヶ原周辺地域で植物相調査に関わっている専門家や、過去の大台ヶ原の状況を知っている方々等との連携も必要である。
- ⇒ [事務局] 植物相調査のまとめ方については、大台ヶ原の特殊性・固有性を把握することに重点を置き、今後、既存資料の整理や関係者へのヒアリングを進める。

(野生動物に関する調査)

- ・ 昆虫類調査の結果については、まずは7つの植生タイプ毎の特性をまとめた方が理解しやすいのではないか。その上で、防鹿柵内外の評価をしてはどうか。

- ・他地域において先行研究や事例があるものについては、それらを積極的に活用して、わかりやすくまとめる必要がある。
 - ・本部会に専門家のいない群については、調査結果のまとめ方等に関し、別途専門家にヒアリングするなどし、助言を受ける必要がある。
 - ・動物調査については、平成18年度までモニタリング調査項目が一通り終了した。今後は、焦点を絞った形で、調査方法や調査結果のまとめ方、植生との相互作用等について検討していく必要がある。
- ⇒ [事務局] 次年度も継続して、動物の専門家の方々に集まって頂く機会を設ける予定であり、その中で調査結果のまとめ方等について検討頂きたい。

(西大台利用調整地区モニタリング計画)

- ・自然環境への負荷の軽減として、密漁、密猟、盗掘の問題は重要である。
 - ・状況を最も良く把握しているのは地域の方々である。そういった方々と協力・連携し、監視体制を構築していくことも重要である。
- ⇒ [事務局] 調査項目のうち「利用の質の向上に関する調査」において、巡視者やふれあい活動従事者等、頻繁に西大台に立ち入る方々に協力頂き、マナー違反や不法行為の情報を収集する予定である。地域の方々を含め、より多くの関係者に協力頂きたいと考えている。

(ニホンジカ保護管理計画（第2期）案について)

- ・捕獲方法として、昨年現地で検討した大型捕獲柵が記載されていないが、現在の状況についてお聞きしたい。
- ⇒ [事務局] その後、ニホンジカ保護管理部会の委員と再度現地検討を行った結果、地形条件やシカの誘引に課題があることから、早急な実施は見送ったところである。捕獲のためのひとつつの手法として、検討の対象にはしていきたい。
- ・周辺地域の生息環境の整備（森林の保全）については、環境省がリーダーシップをとり、関係機関に働きかけことで進めてもらいたい。
 - ・ラス巻きつけについては、樹幹着生の蘚苔類への影響に留意する必要がある。
- ⇒ [事務局] 今後も、継続的に周辺地域の関係機関と連携を図っていくとともに、ラス巻きつけについては、緊急的な対策として実施する一方で、専門家と連携しながら、蘚苔類への影響把握に努めていきたい。

(その他)

- ・普及啓発のためのひとつとして、調査で得られた標本等をビジターセンターで展示するなどの活用方法を検討すべきである。
- ・地域の学校や役場（教育委員会など）と連携し、地域の方々に調査の成果等を紹介する機会を積極的に設けるべきである。その際、大きなシンポジウムなどを一度開催して終わりにするのではなく、小規模でも継続的に実施されるものが望ましい。

[文責：近畿地方環境事務所]